



GCP Spotlight #02

宮内 正枝さん

未知の環境で自らを磨く「Away体験」を通し、自分らしい歩みを拓く学生に焦点を当てる「GCP Spotlight」。第2回は、「模擬アフリカ連合（MAU）日本大会2026」に挑戦した宮内正枝さん（文学部3年）にインタビューしました。宮内さんのチームはリベリア代表として参加し、全53カ国の中で唯一となる最高賞「ベストポジションペーパー」を受賞。妥協なき議論と文化交流を通し、現場で自ら考え動き抜いた彼女の等身大の言葉をお伝えします。



今回、模擬アフリカ連合（MAU）に参加されたきっかけを教えてください。

以前から国際会議への参加やアフリカ地域に関心を持っていったものの、「自分にできるだろうか」と少しモヤモヤした気持ちを抱えていました。そんな時、GCPの先輩からMAUの存在を教えてくださいました。そうです。「ずっと興味があったアフリカの議論に挑むなら、今しかない！」と胸の高鳴りを感じ、参加を決意しました。

― 本会議までの約2ヶ月間の準備もかなり本格的だったそうですね。

はい。本会議までの約2ヶ月間、リベリア共和国の代表団として高校生、日本のアフリカ留学生、そして私の3名でチームを組みました。オンラインで密に連携を取りながら、英語でポジションペーパー（政策提案書）を作成していきました。私たちは、リベリアの若年層人口の高さに着目し、先進技術と伝統的な知恵を融合させた「若者と高齢者がペアとなる諮問委員会」の制度化などを提案しました。



― 5月16日・17日の本会議では、全53カ国の代表が集まり、活発な議論が交わされたそうですね。

最初は正直、すごく緊張しました。各国の代表がそれぞれの立場から熱心に発言する中で、「自分もしっかりと考えをまとめて発言しないと」という焦りもあったんです。

でも、GCPの講義や日頃のグループディスカッションで揉まれてきた経験が、私の背中を押してくれました。勇気を出して手を挙げ、リベリア代表としての意見をしっかりと伝えることができたんです。また、チーム内の高校生や後輩たちにも自分から声をかけ、サポートしながら一緒に議論を深めていくことができました。

その結果、私たちが準備してきたポジションペーパーが、全53カ国の中で唯一となる最高賞「ベストポジションペーパー」に選出されました。リベリア代表団の仲間と妥協せずと考え抜いた成果が認められて、本当に嬉しかったです。

― 本会議以外の時間で、特に印象に残っている思い出はありますか？

2日目の午後に行われた文化交流パーティーです！本会議の緊張感から一転して、アフリカのダンスを踊ったり、各国の民族衣装を紹介し合ったりと、本当に温かく最高の交流の場になりました。私たちは日本の文化を伝えようと、スツ姿のままソーラン節を全力で披露して、みんなに踊り方をレクチャーしました（笑）。また、高校時代の書道経験を活かし、和紙に筆で「從藍而青」の文字を書いてアフリカの留学生にプレゼントしました。さらに、参加者全員がリフレクション（振り返り）を書いた紙を貼り合わせて、満開の桜の木を作り上げるプログラムもありました。学術的な議論にとどまらず、互いの母国語や文化の魅力、自然への慈しみの心を通して、平和への想いを分かち合えたあの時間は、私にとってかけがえない宝物です。

― JGAWay体験を通して、「自身の中どんな変化がありましたか？

以前の私は、「完璧に事前準備をして、自身の中どんな変化がありましたか？」というタイプで、せっかくのチャンスやタイミングを逃してしまうこともありました。今回は、日本人であっても留学生であっても、移動時間や立食パーティーの場で自分から積極的に英語で話しかけることができました。「完璧な準備」を待つのではなく、「今、自分から関わりに行く」という能動的な姿勢こそが、世界に友情を広げるのだと実感しています。



最後に、GCPでの挑戦を考えている読者へメッセージをお願いします。

「貢献したい」「挑戦したい」という気持ちさえあれば、それを受け止めてくれる仲間や環境がGCPにはあります。一歩踏み出すことで、思いがけないチャンスと出会い、「心の宝」となる人との繋がりが生まれます。皆さんもぜひ、自分だけの挑戦を楽しんでください！

